

平成30年度 学校評価総括評価表

徳島県立徳島視覚支援学校

(1) 重点課題

視覚支援学校と聴覚支援学校が、「つながる」を合い言葉として連携・協働することにより、「幼児・児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を推進する。

1 学びがつながる

視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。

2 未来につながる

幼稚園から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。

3 地域とつながる

特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をとおした活動を支援します。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。

4 心がつながる

思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。

(2) 重点目標

- ① 視覚障がい教育に関する研修と公開授業、OJTによる授業力の向上等により、教職員の専門性を向上します。
- ② 点字教材と触察教材の充実を図ることにより、一人一人の見え方に対応した教育を推進します。
- ③ 支援機器等教材を積極的に活用することにより、指導方法の充実を図ります。
- ④ 特別支援教育センターとしての機能を十分に発揮し、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開します。
- ⑤ 幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。
徳島視覚支援学校と徳島聴覚支援学校の連携・協働した学習や行事等の教育活動(4つのつながり)を基盤とし、一人一人が尊重される人権教育を推進します。
- ⑥ 幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。
- ⑦ 視覚支援学校と聴覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が、安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルールづくりを推進します。
- ⑧ 聴覚支援学校との共同学習や行事への参加等により、ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを推進します。
- ⑨ 教員と寄宿舎指導員による就業体験の引率をとおして、寄宿舎における生活指導の充実を図ります。
- ⑩ 防災避難施設として、地域の人々と連携した防災訓練等を行います。
- ⑪ 生涯学習の拠点として、視覚障がいのある人の活動を支援します。
- ⑫ 奉仕活動や環境・エネルギー活動、啓発活動をとおして、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。

重点課題	2 未来につながる 幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。				
重点目標又は今年度の目標	②点字教材と触察教材の充実を図ることにより、一人一人の見え方に対応した教育を推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎指導員が、点字の基本的な知識を身に付け、寄宿舎における一人一人の舎生の見え方に対応した生活環境の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・点字に関する舎内研修を年1回以上実施する。 ・配布物や表示を点字で作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で点字タイプライターであるパーキンスの使い方と点訳ソフトの基本的な使い方について、校内の専門の教員による研修を受け、実際に演習も行った。 ・点字の研修を生かし、2学期から行事予定を点字で作成し、点字使用の舎生へ配布した。また、部屋の掲示物の内容が分かるように点字シールを貼ったり、手すりの点字シールを交換したりした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・点字の配布物や、表示を作成したが、全指導員で取り組めなかったため、次年度は交代で作成に加われるように計画を立てる必要がある。また、パーキンスや点訳ソフトを使用する技能が十分でないこと、個人差もあるため、自己研修も含め、今後も研修を重ねていきたい。
重点課題	2 未来につながる 幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。				
重点目標又は今年度の目標	⑦視覚支援学校と聴覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が、安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルールづくりを推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> ・両校舎生が安心・安全に生活できる環境を整え、緊急時における寄宿舎体制の強化・充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急搬送の可能性のある舎生を対象にした緊急対応訓練(個別)を、月1回以上実施する。 ・緊急対応訓練(全体)を、舎監を対象に年1回以上、さらに両校指導員を対象に学期に1回以上行い、その都度マニュアルを見直していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の訓練に、舎監にも参加してもらい、役割の確認をした。毎月1回以上視覚の指導員を中心に毎回役割を交代し訓練を実施し、その都度改善を行っている。2学期には早朝に対象舎生が呼び出しブザーを鳴らし、対応したことがあったため、同様の想定で、後日訓練を行った。昨年度より訓練を重ねているため、緊急時の対応が定着してきた。 ・寄宿舎緊急対応訓練を舎監対象には実施できなかったが、両校指導員を対象に、今年度3回実施した。両校指導員全員が参加し、フロー図や緊急対応の動きを訓練の中で確認した。看護師、養護教諭にも見学してもらい、訓練の中で出た意見や、訓練後のアンケート結果をふまえ、次の訓練時には改善を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も様々な場面を想定し、定期的に訓練を重ね、緊急時に備えていくことはもとより、専門の外部講師を招いて、応急的な処置の仕方などの研修が必要である。 ・全体の訓練に関しては、今年度、3回とも対象舎生を男子で想定して行ったので、来年度は女子を想定しての訓練を実施し、動きを確認したい。また、今年度実施できなかった、舎監を対象にした訓練を計画したい。

重点課題	2 未来につながる
	幼稚園から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。

重点目標又は今年度の目標 ① 視覚障がい教育に関する研修と公開授業、OJTによる授業力の向上等により、教職員の専門性を向上します。

具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
研究・情報課 ・わかる授業、視覚障がい教育の専門性に根ざした授業実践に取り組むため、研修グループを設け、実際の授業や指導に役立つ実践的な内容の研修を行う。	・視覚障がい教育・点字(基礎)・点字(応用)・歩行・教材研究・ICTの研修グループを設け、年間7回以上実施し、研修後のアンケートにおいて、80%の教員から「授業や生活指導に役立つ内容であった」との回答を得る。 ・各グループの取組や成果物を全教職員が共有できるよう、イントラ等を活用して情報交換する機会を設ける。	・視覚障がい教育・点字(基礎)・点字(応用)・歩行・教材研究・ICTの研修グループを設けた。所属するグループの希望を取りまとめて班員を編成した。各グループのリーダーと今年度の研修の進め方について共通理解を図った。 ・各グループで研修計画を作成し、1月までに7回各グループで研修を実施し、2月はグループ研修報告会として各グループの研修成果を報告し共有した。 ・研修後のアンケートを集計した結果、96%の教員が「授業や生活指導に役立つ内容であった」と回答した。 ・各グループの成果物をイントラから閲覧できるよう環境を整備した。	A		・担当する幼児・児童生徒の実態によっては、各グループの研修内容がすぐに指導につながりにくい面がある。 ・担当する幼児・児童生徒の指導に直結する研修を充実させるためには、学部・学科単位の研修を重点的に行う等、研修体制の見直しが必要である。

重点課題	3 地域とつながる
	特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をとおした活動を支援します。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守ります。

重点目標又は今年度の目標 ○ホームページを活用して教育活動等の情報発信を行い、視覚障がいの理解啓発に努める。

具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
研究・情報課 ・地域住民への理解啓発をめざし、学校ホームページに教育活動の様子や取組、研修の案内や報告などの新しい情報を掲載し、情報の発信に努める。	・各学部・学科及び各課に、教育活動や研修などの新しい情報を学校ホームページで情報発信するよう定期的に依頼する。 ・各学部・学科及び各課が年2回以上、学校ホームページの情報を更新する。	・各学部・学科及び各課でホームページ担当者を決め、研究・情報課から各担当者へホームページ編集のIDとパスワードを配付した。 ・定期的に情報の更新を依頼する呼びかけができていなかった。 ・各学部・学科で平均10回、各課では平均3.2回情報を更新し、活動の様子や取組、研修案内等の情報を発信した。	B	・ホームページを活用して、地域の方に情報を発信することは非常に有効である。学校の行事や日常の風景等も発信されると見ていた。 ・語句の検索をした場合に学校のホームページが上位に表示されたらよいことだと思う。	・修学旅行の様子を出張先からホームページに掲載する際に必要なICT機器と諸手続き、記事の作成手順と注意事項等を出張者に整理して説明することができなかった。課として説明しやすく出張者が確認しながら作業ができるためにマニュアルの整備が必要である。 ・年度当初は情報の更新作業が集中する時期である。更新状況を確認し、適宜職員朝会等で更新の遅れがないよう周知徹底をする。

重点課題	1 学びがつながる。				
	視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。				
重点目標又は今年度の目標	⑦視覚支援学校と聴覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が、安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルールづくりを推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
渉外・安全課	・改訂したQコールカードを使っての緊急対応訓練を行い、問題点の改善を行いながら教職員への周知を図る。	・緊急対応訓練時に各学部で出された問題点を集約し、改善案を検討する。	・改訂したQコールカードを使って7月と9月に全学部で緊急対応訓練を行った。(全5回)	A	・全学部学科の教職員が、協力しあって緊急対応訓練を行う事ができた。今年度は訓練を実施するのが遅かったので、来年度は5月中から6月初旬までに行えるように計画的に行いたい。
	・聴覚支援学校の渉外・安全課と連携し、改善点の周知徹底を図る。	・各訓練後、関わった教職員を含め、各学部で振り返りを行い、問題点等の意見を出し合い、確認し合った。			
	・互いの緊急対応訓練に、必要に応じて参加し合い、相互理解や協力を図る。	・その後両校の養護教諭、看護師を中心に改善案を話し合い、すぐに対応できる改善点は次の訓練に繋げ、再度周知を図った。			
重点課題	3 地域とつながる。				
	特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をとおした活動を支援します。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守ります。				
重点目標又は今年度の目標	⑩防災避難施設として、地域の人々と連携した防災訓練等を行います。				
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
渉外・安全課	・地域の防災避難施設としての役割を果たすため、地域住民と聴覚支援学校と連携した合同防災訓練を行う。	・地域との連携した防災訓練の日に、本校の災害用備品を展示する場を設ける。	・段ボールベッド、段ボールトイレに加え、新しくアルミブランケットを展示し保温性等の体験をする場を設けた。	B	・聴覚支援学校や地域と連携をとり、計画実施できた。 ・地域住民と聴覚支援学校と連携した合同防災学習は、夏期休業中の補習授業日と合わせる等、専攻科の生徒が参加しやすい日程を検討する。 ・災害備品点検については聴覚支援学校との合同課会を実施し、来年度も継続して行うこととした。
	・幼稚部の幼児と専攻科の生徒にも参加を促し、全学部、学科の幼児・児童生徒のうち半数以上が参加することができる。	・幼稚部、専攻科に参加依頼通知を配布したが、夏期休業中の通学等の不都合により参加できず、24%の参加率に止まった。			
	・災害用備品の点検を年1回実施する。	・災害備品点検を聴覚支援学校との合同課会で12月25日に実施した。			

重点課題	2 未来につながる					
	幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。					
重点目標又は今年度の目標 ①視覚障がい教育に関する研修と公開授業、OJTによる授業力の向上等により、教職員の専門性を向上します。						
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見		
教務課	・授業準備の時間確保のため、月曜日の放課後を教材作成日と設定する。	・行事の調整を行い、月曜日の放課後に会議、研修等を入れずに、授業準備の時間が確保できた日を60%以上とする。	・月曜日は授業日に29回あり、その内、会議や研修等がなく、教材作成日として時間を確保することができた日は、15日であった。達成率は、51%であり、目標は、達成できなかった。	B	・グループ研修でも教材作成を行っている。時間の使い方工夫したら効率的にできるのではないかと。	・引き続き、各学部や各校務分掌と行事等の調整をし、月曜日に教材作成等の授業準備ができる時間を確保したい。
重点課題	2 未来につながる					
	幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。					
重点目標又は今年度の目標 〇幼児児童生徒の学力向上を目指します。						
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見		
教務課	・児童生徒の学力向上のため、授業時数の確保に努める。	・行事等により、授業時数に偏りがでないよう、時間割の調整を行い、各教科の授業時数を確保する。特に主要科目においては、1単位あたり35時間以上の授業実施を100%とする。	・行事等により、各教科の授業時数に偏りがあったため、特別時間割により、不足教科の授業時間を確保出来るよう時間割調整を行った。 ・総授業時数は規定時数を超えて実施できたが、個々の授業時数1単位あたり35時間を超えて実施が難しい教科があった。その教科の学習内容においては、補習を実施することで十分な学習時間の確保に努め、理解度を深めることができた。	B		・来年度は祝祭日が多いこともあり、授業時間数確保に向けて、各学部や各校務分掌と行事等の調整を行っている。行事については、幼児児童生徒が主体的に参加することを目標に、活動内容の充実、改善、精選、発展を検討していく。

重点課題	3 地域とつながる。					
	特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をとおした活動を支援します。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守ります。					
重点目標又は今年度の目標	○個別の教育支援計画の内容をさらに充実したものにし、有効に活用できるよう教員に働きかける。					
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見		
サポート課	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画の視覚に関する内容や合理的配慮について確認し、より適切に記入されるようサポートする。また、有効に活用できるように働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画の内容を年間2回確認する機会をもつ。 学期末の記入やケース会議等での活用を年間5回以上呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成時に視能訓練士を交えて確認を行った。また、作成時や長期休業の前後に、受診時の情報等の記入や活用について、年間5回以上呼びかけを行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 療育施設では、保護者の許可を得て、療育内容を検討する際の参考として計画を活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内での共通理解には活用できたと思うが、校外への持ち出し申請はなかった。 次年度は、高等部職業学科に新様式を導入する。今年度同様の教員への働きかけに加え、保護者への説明を行い、他機関との連携での活用について理解を進める機会をもつ。
重点課題	4 心がつながる					
	思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。					
重点目標又は今年度の目標	⑫奉仕活動や環境・エネルギー活動、啓発活動をとおして、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。					
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見		
サポート課	<ul style="list-style-type: none"> 徳島聴覚支援学校との合同作品展を計画・実施し、地域への理解啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度まで実施していた阿波銀行二軒屋支店に加え、新しい会場を開拓し、年間2回以上合同作品展を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2月前半に新しい会場として八万中央コミュニティセンター、後半に例年通りの阿波銀行二軒屋支店で開催する。どちらも学校の近隣の会場であり、地域への理解啓発のよい機会となると考えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域も学校を理解したいという気持ちがあり、学校概要の説明をしていただける機会を設定した。 地域が学校の設置を希望したことを住民に伝えていきたい。 卒業生の学校での体験談を伝えることで、学校のアピールができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は、さらに理解啓発の範囲を広げるために、徳島県庁のすだちくんテラスでの開催も検討したい。また、開催時期については徳島聴覚支援学校と検討する。

重点課題	2 未来につながる
	幼稚園から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。

重点目標又は今年度の目標 ⑥幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。

具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
人権・キャリア教育課 ・幼稚園・小学部・中学部・高等部普通科の幼児・児童生徒が夏季休業中に家庭でチャレンジウィーク(お手伝い活動)に取り組み、勤労観を養い、役割を果たそうとする態度を身に付ける。 ・中学部・高等部普通科・専攻科を対象にビジネスマナーのセミナーを行い、社会に出て必要な基本的なマナーの理解と実践力を養う。	・本人や保護者が実施後に評価表の記入をし、実施及び提出が80%以上となる。 ・セミナー後にアンケートを実施し、80%以上の満足度を得る。	・夏季休業中に幼稚園・小学部・中学部・高等部普通科でチャレンジウィーク(お手伝い活動)に取り組み、実施、提出が86%であった。 ・6月に中学部・高等部普通科・専攻科1年を対象としたビジネスマナーセミナーを実施し、生徒アンケートで「社会人としての心構えやビジネスマナーについて関心を持つことができた」「ある程度できた」と答えた生徒が100%であった。教員アンケートでは、「キャリア教育の一貫として生徒の参考に大いになった」「ある程度参考になった」と答えた教員は93%であった。	A	・小学部の頃はその目的が十分に理解できてなかったが、高等部になって、卒業後の生活につながることに実感できた。 ・生徒対象の研修を保護者も参観できるようにすることで、保護者も将来的に必要な力を知ることにつながる。	・夏季休業中の家庭でのチャレンジウィーク(お手伝い活動)の取り組みは定着してきている。家庭と連携して勤労観を養い、役割を果たそうとする態度を身に付けるために、今後も取組を推進し、チャレンジウィーク期間だけでなく日々の家庭生活や学校生活でも活動が継続、般化していくよう懇談等を通して共通理解をしていきたい。 ・ビジネスマナーのセミナーでは、講師先生が社会に出て必要な基本的なマナーを演習を交え、丁寧に教えてください、理解と実践力を養うことができた。次年度は、基本的なマナーの定着と応用的な内容もできるような2回行うようにしたい。

重点課題	4 心がつながる
	思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。

重点目標又は今年度の目標 ⑤幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。

具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
人権・キャリア教育課 ・生徒対象に人権問題意識調査を実施し、調査の結果を活かした人権講演会を行い、人権意識の向上を図る。	・生徒の興味・関心の高い人権問題の講演会を計画し、アンケートにおいて80%以上の満足度を得る。	・年度当初に行った人権問題意識調査で生徒の興味・関心の高かった「インターネットによる人権侵害」について12月に講演会を行った。講演会後のアンケートで、100%の生徒が「インターネットによる人権侵害について関心を持つことができた」と回答した。	A		・生徒の身近になってきているスマートフォンやインターネットの人権侵害の講演会で興味・関心を持って聞き、改めて自分の行動を見直すきっかけとなり、人権意識の向上が図れた。次年度も人権問題意識調査を実施し、生徒の興味・関心や実態に応じた人権教育を展開したい。

重点課題	1 学びがつながる				
	視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。				
重点目標又は今年度の目標	⑫奉仕活動や環境・エネルギー活動、啓発活動をとおして、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。				
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
人権・キャリア教育課	・視覚支援学校と聴覚支援学校合同で人権教育の研究授業と研究協議を行い、互いの合理的配慮を学ぶことで、幼児・児童生徒が互いに認め合う保育・教育につながる。	・合理的配慮のアンケートを教職員に実施し、80%以上の教職員が、「常にできている」「だいたいできている」との回答をする。	・聴覚支援学校と合同で人権教育の研究授業や研究協議を行い、互いの合理的配慮を学ぶことができた。7月に実施した合理的配慮のアンケートでは、15項目中10項目で80%以上の教職員が「常にできている」「だいたいできている」と回答をした。残りの授業スキルに関する5項目については、60%後半から80%未満であった。	B	・アンケートでは、幼児・児童生徒の実態の多様化により、授業の難しさを感じる教員が多いことがわかったため、授業時間における合理的配慮の提供を今以上に行えるよう研究・情報課と連携を取り、授業研究や学部での研修を行うようにする。次年度も継続して合理的配慮についてのアンケートを行い、教員の意識を高めていきたい。

重点課題	1 学びがつながる					
	視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。					
重点目標又は今年度の目標		⑧聴覚支援学校との共同学習や行事への参加等により、ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見		
生徒活動課	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を通して、聴覚支援学校との交流が深まるよう、ともに学ぶ教育の機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚支援学校に、第44回中国四国地区盲学校弁論大会校内選考会後や本校文化祭後に、行事に参加した児童生徒の感想が得られるように依頼をする。 ・聴覚支援学校の児童生徒の行事に参加しての感想を、本校の児童生徒にフィードバックを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚支援学校に校内弁論大会の要項や原稿を事前に配布し、参加や、聴衆後の感想文の記入を依頼した。 ・出場弁士に聴覚支援学校の生徒の感想文を回覧し、自分の弁論に対する感想や評価をフィードバックすることができた。 ・校内選考での優勝者が、中国四国地区大会でも優勝し、全国大会に出場することができたことで、全国の友人とも交流を図ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・両校にはそれぞれに教育のねらいがあるので、そのねらいの達成に効果的な交流や合同学習が行われることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の在籍数が減少している上、重複クラスの在籍数も増加し、校内選考会に出場する生徒数の確保が難しくなっている。現在は、自由参加となっているが、文章表現が可能な生徒には、校内選考会に全員参加してもらうように変更する等の対応が必要である。
重点課題	4 心がつながる					
	思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。					
重点目標又は今年度の目標		○視覚障がい等のある児童生徒の、行事への積極的な参加を推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見		
生徒活動課	<ul style="list-style-type: none"> ・第25回中国・四国地区盲学校体育大会への、参加・観戦の呼びかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催種目にエントリーができるように、部活動と連携をする。 ・複数名が競技にエントリーをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は1名の参加であったが、今年度は卓球の部に3名参加することができた。 ・練習も、部活動の顧問の協力を得て、通常の部活日以外にも臨時の練習の機会を設けるなど、意欲的に参加することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は本県での開催と、参加しやすい状況にあったが、次年度以降は宿泊を伴っての参加となるため、出場へのさらなる強い動機付けが必要となる。 	

重点課題	2 未来につながる				
	幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。				
重点目標又は今年度の目標		○学校と家庭とが連携し、幼児の育ちを支える保育の充実を図ります。			
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
幼稚部	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に応じた支援方法について、教員間だけでなく保護者とも共通理解し、保育活動を実施する。 ・保護者を対象とした学習会を年に3回以上実施する。 ・視覚障がい教育に関する研修会や幼児の実態、保育に関するケース会・検討会を年に10回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の学習会を7月と11月に実施した。3回目は、2月の保育参観日に実施する。 ・保育に関する検討会や研修会、ケース会を9回実施した。3月中に、次年度に向けた保育室環境の検討会やケース会を実施する。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き保護者対象の学習会を計画・実施したい。 ・定期的に会を設けるだけでなく、学部会を活用して幼児のケース会を実施し、幼児の発達や成長に応じた支援方法や教材について検討する時間を設けるようにしたい。
重点課題	4 心がつながる				
	思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。				
重点目標又は今年度の目標		⑤幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。徳島視覚支援学校と徳島聴覚支援学校の連携・協働した学習や行事等の教育活動(4つのつながり)を基盤とし、一人一人が尊重される人権教育を推進します。			
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
幼稚部	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中に友だちを意識できる場面を保育の中で設定する。 ・毎週、木曜日と金曜日に、年少児・年長児合同のおやつタイムを設定する。 ・課題あそびや自由あそびの時間に順番を待ったり、用意された物を隣に座っている友だちに渡したりする活動を取り入れる。 ・保健室への出席報告を曜日ごとの当番制にし、出席報告に行くときに、友だちの出欠確認を教員と一緒にに行く。 ・出席報告のときに使う出席ボードを次の当番の友だちに渡しに行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週木曜日と金曜日に、年長児の保育室で合同のおやつタイムを実施した。 ・リズム室の遊具で遊ぶときに順番を待ったり、交代する時にタッチをしたりした。また、制作遊びで使う筆や紙粘土を友だちに渡す活動を取り入れた。 ・保健室への出席報告を、月曜日から水曜日を年長児が担当し、木曜日と金曜日を年少児が担当した。出席している友だち、欠席している友だちを確認しながら、「出席」「欠席」の札を貼った。 ・朝の活動の中で、年長児が年少クラスに出席ボードを渡しに行った。渡したときに、名前を呼びながら触れあいも行った。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・意識的に活動を取り入れたことで、学年を超えた友だちとの関わりもできた。 ・引き続き、教員が仲立ちをしながら、友だちの声を聞いたり、友だちと触れあったりする時間を保育の中で設定していく。

重点課題	2 未来につながる				
	幼稚園から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。				
重点目標又は今年度の目標		②点字教材と触察教材の充実を図ることにより、一人一人の見え方に対応した教育を推進します。			
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
小学部	・触ってわかるスケジュール教材や、コントラストのはっきりした見えやすい教材などを充実させ、視覚に障がいのある児童が、見通しをもったり、触覚や視覚を最大限に活用したりしながら活動できるようにする。	・触覚や保有感の活用に重点を置いた教材を新たに10以上考案し、活用する。	・教材を10以上作成し、活用することができた。 ・触覚を活用して使用する教材として、凸線枠や凸シールなどを用いた「カレンダー」「時間割ボード」「修学旅行のしおり」「作り方手順カード」「シール貼り用枠」などを作成した。視覚を活用して使用する教材として、iPadを用いた「数や図形のマッチング教材」「視力検査視標マッチング教材」「電子絵本」、コントラストをはっきりさせた「時間割表」「体カード」などを作成した。どの教材も日々の活動の中で使用し、児童の様子を見ながら改善を加え、作り直したり、次のステップの教材へと発展させたりすることができた。	A	・高等部生徒のプログラミング学習を通して、小学部の児童等が使用できる教材を作成することで、お互いに学びがあると思う。 ・児童の実態が大きく異なることを踏まえ、それぞれの児童の実態をいねいに把握し、児童の課題に応じた教材を作成する必要がある。 ・教材づくりやその活用方法についての情報を教員間で共有する場を設けたい。
重点課題	2 未来につながる				
	幼稚園から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。				
重点目標又は今年度の目標		○一人一人の児童の実態に応じた支援方法の充実とその共有を徹底し、児童の能力を最大限に伸ばします。			
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
小学部	・ケース会議を充実させ、児童の実態や支援の方法などを教員間で話し合ったり共通理解したりする。	・個別の教育支援計画や個別の指導計画の内容を共有し、児童に対する指導の手立てや支援の方法などを話し合うケース会議を、年間6回以上行う。	・年間7回のケース会議を実施した。 ・4月には、全員が共有しておくべき情報の伝達のためのケース会議を実施した。5～7月にかけて、各児童の実態と支援の方法を共有したり、課題となっていることについて話し合ったりするケース会議を3回実施した。11月には、支援の方法について再確認したいことを伝え合うケース会議を3回実施した。	A	・限られた時間の中で情報を共有したり、協議を深めたりすることが難しかった。 ・事前にケース会議の資料を配付して読んでもらい、会議の場では協議に時間を割くことができるようにしたい。

重点課題	2 未来につながる				
	幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。				
重点目標又は今年度の目標		①視覚障がい教育に関する研修と公開授業、OJTによる授業力の向上等により、教職員の専門性を向上します。			
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況		総合評価	
中学部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じた合理的配慮を行い、自己評価票によって授業改善を図ることで教員の専門性の向上につなげる。 生徒に関するケース会議を年間10回行い、教員間で指導の共通理解を図る。 合理的配慮に関する「自己評価票」を作成し、チェック、改善を3回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学協会や教科担任者会で、生徒の情報共有、指導の統一等の話し合いを15回実施した。また、中学部生徒に特化した「授業を行う上での教員の基本姿勢についてのチェック表」を作成し、中学部教員、教科担任で自己評価を3回行った。 		A	<ul style="list-style-type: none"> 人権・キャリア教育課が合理的配慮のアンケートを実施しているため、この内容は重複する部分があるのではないかと。 研修等により、視覚に障害がある生徒への事象の説明、教材の提示、触察指導等の基本的指導技術を身に付け、さらにケース会議等でそれぞれの生徒の実態に応じた具体的な指導ができるよう計画に取り組む。
重点課題	4 心がつながる				
	思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。				
重点目標又は今年度の目標		⑤幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。徳島視覚支援学校と徳島聴覚支援学校の連携・協働した学習や行事等の教育活動(4つのつながり)を基盤とし、一人一人が尊重される人権教育を推進します。			
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況		総合評価	
中学部	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の中で、平和学習を計画的に実施(10時間)する。 広島中央特別支援学校との交流学习を通して、今後平和な社会を築いていく一員として何ができるかを考え、手紙等で互いの考えを共有する学習を行う。 教科担任同士で情報交換し、音楽や社会、国語等の各教科間で連携して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間に、平和学習(被爆体験談を読む、折り鶴に関する調べ学習をする、今度平和な社会を作る一員としてどうしていくかを考えるなど)を11時間実施した。 広島中央特別支援学校の生徒と一緒に「折り鶴に託された思いを昇華させるための取組」活動を行った上で、手紙を通して考えを共有した。 社会では広島について、国語では戦時中の生活に関する題材での学習、音楽では「大地讃頌」の歌唱に取り組む等、教科担任が連携して学習を行った。 		A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人権学習を、生徒自身の生活に結びつけていけるような学習計画を立てていく。

重点課題	2 未来につながる
	幼稚園から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。

重点目標又は今年度の目標 ⑥幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。

具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見		
高等部普通科	・一人一人に応じた施設や事業所の見学及び就業体験を行い、将来の生活を見据え自分の課題を理解したり、体験をした気持ちを表現したりすることができる。	・一人一人以上以上の事業所等で見学と就業体験を行う。	・7月に一人一人から二カ所、施設と事業所の見学を行い、C課程の生徒は事後学習で内容や感想をまとめ、A課程の生徒は見学中に表情等で自分の気持ちを表現した。	A	・卒業後の生活を見据えて、スケジュール管理、選択する力、困ったときや自分の体調を伝える力など、生徒が考えて生徒が伝えることができる力の育成が大切だと思う。 ・卒業後に利用する福祉施設に対して、特に見えにくさへの学校での指導・支援の方法や考え方を伝えることで、生徒が卒業後も在学時と変わらない指導・支援を受けることができる。 ・卒業生や卒業生の保護者の話を聞く機会も必要だと思う。	・次年度は、高等部卒業後の進路を見据えて、1年生は見学や就業体験、2年生は就業体験を行い、一人一人に応じて就業体験先や時期・期間を設定していく必要がある。また、事前・事後学習を充実させ主体的に参加できるようにしたい。
		・反省会や事後学習で自分の課題について発表をし、言葉での発表が難しい生徒は体験中に表情や発声、態度で自分の気持ちを表現する。	・就業体験は一人一人カ所で実施した。それぞれの反省会では、感想や課題について話したり、自分の気持ちを表現することができ、体験先の方からアドバイス等をいただいた。就業体験報告会は2月に予定している。			

重点課題	4 心がつながる
	思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。

重点目標又は今年度の目標 ⑫奉仕活動や環境・エネルギー活動、啓発活動をとおして、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。

具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見		
高等部普通科	・視覚障がいに対する理解啓発活動を主体的に考え、文化祭で表現したり、城南高校や聴覚支援学校の文化祭で展示等をしたりする。	・視覚障がいに対する理解啓発ビデオを作成するためにあらずじやセリフを考え、出演をして演技をする。	・文化祭で上映する支援機器を紹介するビデオを作成した。内容やあらずじ、セリフを考えることができ、本人役で出演し、演技をすることができた。	A		・本校や他校での文化祭の表現や展示を通じて、主体的に視覚障がいに対する理解啓発について考えることができた。次年度も生徒の主体性を重視し、互いに意見を出し合い、進めていくようにしたい。
		・文化祭や展示について意見を出し合い、話し合う機会を3回以上もつ。	・本校の文化祭の表現や城南高校、聴覚支援学校の文化祭での展示をするための話し合いを4回もち、司会をしたり、意見を出し合ったりすることができた。			

重点課題	2 未来につながる				
	幼稚園から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。				
重点目標又は今年度の目標		⑥幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。			
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
高等部専攻科	・卒業後の就職へ向け、社会人・医療従事者として必要なスキルを身に付けられるよう、実習や授業を通してキャリア指導を行う。 ・職業学科「個別のキャリア教育学習プログラム」を活用し、個々のスキルを評価し、値が低い項目について特に重点的に指導を行い、80%以上の生徒で値が上昇する。	・全ての生徒で評価が上昇した。プログラムを活用することで、生徒の実態の把握が的確にでき、多様な指導内容を設定することができた。生徒一人一人に医療従事者として必要なキャリア指導を実践することができた。		A	・評価は上がっているが、まだスキルとして十分ではない項目がある。より医療人としてふさわしいキャリアスキルを身につけられるようにするため、次年度以降も本校で作成した「個別のキャリア教育学習プログラム」を活用して、医療従事者として必要なキャリア指導を行っていきたいと考える。
重点課題	4 心がつながる				
	思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。				
重点目標又は今年度の目標		⑫奉仕活動や環境・エネルギー活動、啓発活動をととして、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。			
具体的な活動計画	評価指標	最終評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価	学校関係者の意見	
高等部専攻科	・職業学科の活動を紹介するパネル等を作成し、校外臨床実習時に提示することで、本校や視覚障がいに対する理解啓発を促す。 ・校外臨床実習においてアンケートを行い、90%以上の方が本校での学習内容を知り視覚支援学校が身近に感じる事ができたと回答する。	・本年度の校外臨床実習終了後、アンケートの集計を行った結果、89%の方が本校での学習内容を知り視覚支援学校を身近に感じる事ができたと回答した。		B	・目標としていた90%には至らなかったが、本学科の取組を知ってもらいきっかけとなったように感じている。次年度はよりわかりやすい展示物を作成し、啓発をより積極的に行っていきたい。